

学校だより

四日市市立八郷小学校発
平成24年2月14日発行

《 No.27 》

【人の生き方に学ぶ】

《戦争体験を聞く会（6年生の学習）、昔の暮らしを聞く会（3年生の学習）》

今年も例年のように、地域の福寿会の皆さんの協力を得て、2つの学習の場を持ちました。戦中・戦後に少年時代、少女時代を過ごされた地域の方々にお集まりいただき、子どもたちの質問に答えてもらうという形式で行いました。

悲惨な戦争、食料のない貧しい生活、そのような毎日でも、元気に生活してきた方々のお話を直接聞くことで、当時の地域の様子や日本の様子を理解することが大切な学習内容です。3年生の子どもたちは先日、四日市市の博物館で、「くらしの道具、いま・むかし」という企画展を見に行きました。そこで説明を受け、実物を見学しました。その知識に今回の聞き取りでの思いをプラスして学習してもらえればと思います。

もう一つの大切な学習は、見出しにあげたように「生き方に学ぶ」ということです。悲惨な戦争、食料のない貧しい生活、そのような毎日でも、元気にたくましく生き抜いてこられた方々のお話を直接聞くことで、当時の地域の様子や日本の様子を理解するだけでなく、折れない心の大切や、親の愛情、地域の団結など、話し手の生き方にじみでる「生き様」に学ぶことも大切な学習内容です。

「生き方に学ぶ」という学習はお年寄りの経験を聞くということにとどまらず、障がいを持つ人のたくましい生き方に学ぶことも同様です。また、地域の行事に参画して、地域の人のつながりや地域のために取組む姿に学ぶことも同様です。



左→「戦争体験を聞く会」

右→「昔の暮らしを聞く会」

八郷小学校では、「直接、人と出会い、人から学ぶ」という学習を大切にしたいと考えています。

後日、お話いただきました福寿会の方から、「このような機会を得たことの喜び」「子どもたちが真剣に話を聞く姿に対話の重要性を教えてくれた」という感謝のお手紙をいただきました。子どもたちの聞く態度がたいへんよかったことで、このような心弾むお手紙をいただけることを、私たち教員も子どもたちに感謝したいと思います。また、「人から学ぶ」学習として、効果的であったとも考えます。

【八郷中央幼稚園の「給食体験」】

八郷中央幼稚園とは、学校プールの使用であったり、1年生の来入園児の招待であったりと小学校を会場にした交流を進めています。今回は「給食体験」です。



小学校の給食で使用する食器・膳を使つての給食です。食器に配られたおかずやご飯、牛乳などを、一人一人の園児が自分の机まで運びます。運んだ食器は、食べやすいように膳の上に並べます。

食器を運ぶのもずいぶん緊張していたようですが、全員が美味しそうに小学校給食を食べていました。

2月8日（金）第1回の体験をしてもらいましたが、第2回は、2月20日（月）予定しています。米飯の給食、パンの給食の両方を食べてもらうとともに、1年生の給食準備の様子も参観してもらい、「自分たちの1年後にはできること」も見てもらいたいと考えています。



八郷中央幼稚園からの入学は12人ですが、残りの幼稚園生活を十分に楽しんでもらうとともに、入学説明会で話しましたことを身につけていただくことを願っています。

裏面に続きます

《今年度最後の読み聞かせ ～図書館ボランティアの「冬ごもり」～》

今年度も、図書館の整理、図書館まつりのイベント、本の読み聞かせなど、八郷小学校の読書活動推進の中心となって活動していただきました、図書館ボランティアの皆さんによる「全学級での本の読み聞かせ」が13日（月）から1週間かけてはじまりました。特に今回は、高学年にも読み聞かせをしていただいています。



八郷小学校の子どもたちの年間読書冊数は、全学年平均70冊。たくさんの本を読んでいます。特に、朝の学習の時間での読書タイム、2回の図書館まつりでの家庭の協力を得ながらの家庭読書が大きな力になっていると考えます。

ただ、子どもたちのアンケートでは、「読書は好きだけど、日常的な家庭読書は少ない」と感じている子どもたちがたくさんいます。これからも、図書館ボランティアの皆さんのお力を借りながら「いつも大人の人、相談できる人のいる図書館」「本の読みたくなる環境」を整えていきたいと思えます。

子どもたちのために様々な活動をしていただいている図書館ボランティアの皆さんの悩みは、「ボランティアの人数の減少」です。来年度も募集をしますので、たくさんの方に参加していただき、子どもたちの読書活動の推進、また、豊かな人間性の寛容のため、協力をいただきますようお願いいたします。

《八郷社会福祉協議会・障害者自立支援施設あさけワークス 共催

「災害に強い地域の絆づくり ～東日本大震災に学ぶ要援護者支援のあり方～」講演会に学ぶ》

地域の各団体の皆さん、市民センター、あさけワークスのボランティアの皆さんなど、たくさんの参加者とともに、見出しの挙げた講演会に参加しました。

東日本大震災で被害を受けられた要援護者の支援や聞き取りを行った、NPO愛知ネットの南里さんのお話を聞きながら、センター館長、民生委員児童委員さん、自治会長さん、ワークスボランティアさん、施設で働く方といっしょに、震災が起こったときの「直後・一週間以内・その後」に何ができるかということで討議を行いました。

いっしょに討議した方々には、地域でいろいろな役割を持って見える方です。センター館長としては、いかに支援のために組織を早く立ち上げ



講演いただいた 南里 幸さん

るか、自治会長さんとしては、地区住民の安否確認と生活の確保、民生委員児童委員の方は、お年寄りや子どものいる家族の支援体制など、それぞれの役割を果たすためのご意見をお聞きしました。

私も、校長として、子どもたちの安全の確保、避難所としての学校の役割、学習環境の確保など、様々な想定しなければならないことについて話をさせていただきました。時間が少なく、十分に話し合うことはできませんでしたが、いろいろな立場であろうと重要な2つのことについての確認ができたと思います。

一つは、学校も含めたしっかりとした組織づくり。一つは、地域の人、

物、専門性の確保を平素から行う。

「いつ震災が起こるかかわからないが、いつか来る震災」へ、学校としても地域の拠点として、地域とともに対応に参画していきたいと考えています。

あさけワークスでは、企業からの仕事とともに、手作り商品も作っています。右の写真は、「ブローチ」です。たいへん可愛いので一つ購入しました。子の他にも、「押し花」を活用した商品なども販売しています。働いている方も、手の動きは遅くても、一つ一ついいいに、心を込めて作っているというお話でした。



以前の学校だよりも紹介しました、子どもたちが取組んでいる「アルミ缶回収」も就労の機会を提供していると改めて感じました。